

コメント

宮城県議会での「北朝鮮による日本人拉致問題に対する理解を

深めるための取組みを推進する決議」にあたって

2021年12月15日
日本共産党宮城県会議員団
団長 三浦 一敏

宮城県議会で本日、「北朝鮮による日本人拉致問題に対する理解を深めるための取組みを推進する決議」が採決され、日本共産党宮城県会議員団は退席、棄権いたしました。

国際的犯罪行為である拉致問題は、一刻も早い解決が求められる重大問題です。日本共産党はその解決のために一貫して力を尽くしてきました。

ただ、本日採決された決議は、学校教育の内容への介入、教育の自主性の侵害に道を開きかねないものです。

拉致問題については、解決を目指すための宣伝・啓発は必要であり、学校教育の場で取り上げることも十分にありえます。しかし、その際に用いる教材や手法は学校現場が自主的に決めるべきものです。

これまでも、宮城県議会では、政府制作の「拉致問題啓発アニメ『めぐみ』」等の教育現場での活用を求める質問があり、教育委員会による視聴状況調査が行われています。

今回の決議は、さらなる教育介入への足がかりとなる懸念が払拭されず、退席しました。

私たちは今後も、拉致問題の早期解決とともに、教育の自主性を守るために全力を尽くすものです。